

乳製品需給等情報交換会議概要

日時：平成 28 年 10 月 28 日（金）13:30～14:30

場所：（独）農畜産業振興機構 北館 6 階会議室

（酪農家（北海道））

- ・川上から川下まで色々な数値がわかるようになったのはいいこと。需要が大きく変動すると供給にも大きな影響があるので、引き続き情報提供をお願いしたい。
- ・台風による飼料への影響は今後注視していきたい。乳房炎の影響はまだ少し残っているが、今後落ち着いてくると思う。
- ・生乳生産の拡大に努めているが、バターの価格が下がるというのは、今しばらく難しいと思う。

（中央酪農会議）

- ・9月は都府県の生乳生産量がJミルクの予測ほどは落ちなかったことから、全国の生乳生産量は、Jミルクの予測より若干上回っていた。また、10月上旬の実績を見ると、東北・関東は予測より上回って推移している。

（全国菓子工業組合連合会）

- ・バターの値段は高いが、供給は十分ある。容量の少ない商品が増えているように感じる。

（日本パン工業会）

- ・バターは十分な量が供給されている。ただ、一時期国産が手に入らず、代替品に原料を切り替えたので、原料を元のバターに戻すにはその環境が整う必要がある。

（Jミルク）

- ・9月の見通しに比べると、生乳生産量は上回っているが、飲用向けも上回って推移している。

(日本乳業協会)

・家庭用バターは 8 月の期末在庫が前年を下回っているが、家庭用バターは冷蔵で消費期限が短いため、早く作ってためることが出来ない。一方、ポンドバターは、冷凍で保存期間が長いので、かなりの在庫があることから、今後、ポンドバターの生産ラインも使用し、家庭用バターの製造に注力できることから、家庭用バターの供給は現在の在庫水準でも心配ないと考える。

・バターが高いという話があったが、今後、酪農家も投資をして、生産量を増やしていく段階であり、現状でバターの値段を下げるというのは難しいと考える。